

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果(広報用)

プログラム名	中国の言葉と文化を実体験する河北の大学訪問研修旅行		
学部・研究科名	人文学部		
プログラム実施期間	2019年8月23日～9月1日(日)		
研修先(国・都市・施設名)	中国・河北省石家庄市・河北医科大学・北京市		
参加者数	3名	知の森からの支援者数	2名
プログラム概要	<p>人文学部の学生3名を引率し、以下の活動を実施した。</p> <p>1) 信大の協定校である河北医科大学の留学生教育組織の協力を得て、ネイティブ講師による中国語授業を行った。日本留学経験のある講師に担当していただいたが、基本的に日本語を使用せず(学生のヒヤリングが不調のときのみ、ヒントとして使用)、中国語を用いての授業展開であった。</p> <p>2) 河北省博物館、石家庄市を代表する名刹隆興寺、更に北京の国家博物館を見学し、中国北方文化ひいては中国の歴史に対するより深い理解を得た。</p> <p>3) 北京の天安門広場、故宮博物院、前門、また万里の長城や頤和園を訪問し見学。中国北京の過去と現在を概観しより深い理解を得た。</p> <p>4) “艾絨灸”や“剪纸”といった文化体験活動、また河北医科大学の学生らとの継続的なコミュニケーションを通じて、中国社会と文化に対する深い理解を得た。河北医科大学と現地の漢方薬品製薬会社とのコネクションによる中国医学体験は珍しいものである。</p>		

実施状況・成果

今回の研修途中で軽く風邪を引いた学生もいましたが、それを除けば大きく体調を崩した参加者は発生せず、交通や天候等のトラブルもなく、9日間の研修旅行を円滑に運営することができました。風邪の件については世話役ボランティアを務めた河北医科大の学生に話をしたところ、休憩時間に大学近くの薬局へ案内してもらい症状に合わせた薬(漢方薬と西洋薬の両方)の買い物につながるなど、これはこれで一つの経験にもなりました。帰国後参加学生たちからは、いずれも非常に満足したという感想が寄せられています。中国語ネイティブ教員による語学研修授業もありましたが、加えて世話役の学生たちとの交流を通じて、中国語のヒヤリングとスピーキングといった実践的なコミュニケーション能力をより高めたという大きなモチベーションを得ていることが感想から分かります。

河北医科大学は歴代の学長・副学長に信大医学部の留学経験を持つ教授が多いことから、数年前の段階から研修旅行に関するプロジェクトの打診を受けていて、今回利用した学内外費招待所の宿泊費用も医科大負担で無料になったり、中国式歓待である食事会も度々催されるなど、予想以上の大きな歓待を受けました。石家庄の博物館や名刹の見学だけでなく、北京での国家博物館・故宮博物院・万里の長城といった、非常に有名でありますが見学するのに長時間を要する場所についても、円滑に見学ができるよう医科大スタッフの手配をいただきました。

理系である河北医科大学と信大人文学部という文系組織のイレギュラーな組み合わせによって初めて実現した研修旅行であります。中国語の勉強と文化体験の面では申し分のないプログラムですし、何より安全快適に過ごすことができました。この10月の大々的な建国70周年式典を控え、数カ月前から続く香港におけるデモの影響もあったのか、駅や施設出入り口での荷物検査が従来から更に強化され、地下鉄車内や街中には警官が多数目を光らせていましたが、滞在に支障をきたすようなことはありませんでした。来年以降も同様の形で継続してほしいという強い意向を医科大側から示されており、その意向に応えるためにも今後の実施に向けて更に工夫したプログラムを構築したいと考えています。

学生の声①—人文学部 学生

今回の中国研修旅行にて語学や文化を学ぶことで自分の世界が広がりました。既知っているはずの語彙でも、ネイティブと対面して実際に使うのは難しいということを実感し、中国には日本にない美味しい料理がたくさんあると知りました。博物館では様々な展示物を目の当たりにして、教科書で読むだけではわからない歴史の存在を体感しました。旅行前の予想と異なっていたのは、思っていたよりも道路等が綺麗だし良い人が多いことです。お世話になった大学の学生さんは、日本人よりも距離の取り方が近くて親切にしてくれました。地理的距離があるので多少は違うだろうと思っていた気候も松本と似ていて、やや乾燥していましたが気温もほぼ同じでした。もちろん完全に一致するわけではありませんが、予想外でした。中国のことを今までより知って現地の人と関わりを持ったことで、「ちゃんと会話をしたい」という気持ちが強くなり、今後の中国語学習のモチベーションに繋げていくつもりです。また、この旅行を通して「やってみたら意外と行けるし楽しいし何とかなる」という体験ができたと感じています。「案ずるより産むが易し」の考え方を大事にして、これからの大学生活を送っていきたいと思います。

学生の声②—人文学部 学生

生の中国を実体験出来た大きな収穫があったと思います。

- 中国語の授業: 当然のことですがネイティブの先生で、いきなり短文を発表させられるなど毎回緊張感のある授業でした。
- 博物館等の見学: 四千年の歴史を見せつけられました。日本で縄文土器が作られていた時期に青銅器・漢字等が着々と発展していた、そのことに改めて感動しました。
- 河北医科大学スタッフ・事務局の方が一人ほほ毎日付いてくれましたが、初日空港出迎えから、市内移動時の交通機関の利用補助、果ては食事のメニューの相談、最後の出国時見送りまで沢山の手厚いおもてなしを頂き感謝感激で一杯です。
- ボランティアの学生: 三人の学生が世話役として毎日付いてくれたが皆さん親切でした。こちらの中国語並びに英語が片言で半分も伝わらないのですが、少しも嫌な顔をせず(困ってはいたようだが)根気よく聞き直してくれて、沢山助けて頂きました。彼らを始め、多分全学生が英語ペラペラらしいのにも驚きました。
- 中国の街中: インターネット新聞テレビ等を通じてある程度の予備知識を持っていましたがやはり百聞は一見に如かず、一つ一つが新鮮でした。一番印象に残ったのは、レンタル電気自転車が発点の交差点に沢山、それも無造作に置いてあったことです。見ていると人が歩いてきてスマホを見て(多分番号を確認して)サドル付近をピツとやると錠が開いてさっと乗っていく、スマート&ビューティー。そしてノーヘル! 全くの私的なことですが、中国語の本(論語、星の王子様)と世界地図、趣味の算盤(上二玉下五玉)、これらを書店や文房具店で入手できてとても嬉しいです。
- 引率の先生: 飛行機の手配、手荷物に何が必要かの助言はもとより、移動中での街並みや人々の振る舞いの説明、諸注意などを沢山頂きました。道中不安になることは全くなかったです。
- 今後: 以前から中国思想を学びたいと思っていましたが、その思いは益々強くなりました。論語などの文献はもちろんのこと、中国語そのものも前期以上に学びたいと思います。

以岭药业有限公司の健康城を訪問、“艾絨灸(ヨモギの 河北医科大学での研修初日、河北医科大関係者と信大参加者)とで記念撮影

